

10 用語解説

あ行 NICU(新生児集中治療室)

低出生体重児や呼吸障害児等の重症新生児を治療するための施設。

か行 感音(性)難聴

内耳又は内耳から聴覚中枢に至る部位に器質性の病変があると考えられる聴覚障害。軽度から高度まで聴覚障害は幅広い。

キュードスピーチ

5 母音の口形+行ごとのキュー(手のサイン)で1つの音を表す。

さ行 耳音響放射(OAE)

2 種類のタイプがあり、歪(ひずみ)成分耳音響放射(DPOAE)と誘発耳音響放射(TEOAE)である。耳に音を入れると、内耳より放射されてくる小さな音で、この音そのものを記録する検査方法である。DPOAE は2つの異なる音(f1 と f2)を与えると $2f_1 - f_2$ で計算される音が放射される。TEOAE はクリック(1~6kHzの音を含むノイズ様の音)を与えると、弱い同じ音が放射される現象である。

自動聴性脳幹反応(自動 ABR)

新生児聴覚スクリーニング用の聴性脳幹反応検査。原理は聴性脳幹反応検査と同じだが、得られた波形はコンピュータによりアルゴリズム解析がなされ、結果が自動的に pass(パス)あるいは refer(要再検)と判定される。通常、刺激音圧は 35 dBnHL を用いる。刺激音圧を自由に設定できる機種もある。

児童発達支援センター

地域の障害のある児童を通所させて、日常生活における基本的動作の指導、自活に必要な知識や技能の習得または集団生活への適応のためのハビリテーションを行う施設。

福祉サービスを行う「福祉型」と、福祉サービスに併せて治療を行う「医療型」がある。

障害児に対する通所施設は、以前は障害種別ごとに分かれていたが、複数の障害に対応できるよう平成 24 年度より一元化が行われた。ただし、これまで同様に障害の特性に応じたサービス提供も認められている。

手話

手の形、位置、動きをもとに、表情も活用する独自の文法体系をもった言語。障害者基本法で「言語(手話を含む)」と明記されたことで、音声言語と対等な言語として法的にも認知されている。手話についての社会的認知度が高まり、補聴器や人工内耳で聴覚活用しながら聴覚障害者同士で会話をしたり、聾者と聞こえる人の間で手話と音声言語の双方を用いるなど、多様な活用が広がっている。京都府では、言語としての手話の普及を進めるとともに、聞こえに障害のある人がその障害の特性に応じたコミュニケーション手段を選択する機会を確保することにより、聞こえに障害のある人とない人とが相互に人格と個性を尊重し合いながら支え合う聞こえの共生社会を推進するため、平成 30 年 3 月 12 日に「言語としての手話の普及を進めるとともに聞こえに障害のある人とない人とが支え合う社会づくり条例」を制定している。

情報保障

聴覚障害により伝わりにくい情報を、環境を整えて公平に得られるようにすること。手話通訳者やノートテイク(教室等その場で要約筆記する人)を配置したり、音声文字に変換して伝えたりすることは視覚的な情報保障の例である。周辺騒音などで聞き取りにくくなる音声を、明瞭な音質で伝える補聴援助システム(コミュニケーションループ・FMやデジタルワイヤレス補聴システムなど)の整備と活用は聴覚的な情報保障の例である。

人工内耳

両耳とも高度難聴の患者の蝸牛内に多チャンネル形の電極を埋め込み、聴神経の一次ニューロンを電気刺激することで聴覚障害の補償をめざす手術と医療器具の総称。体内部の電極、受信器、アンテナと体外部のマイクロホン、スピーチプロセッサ、送信器などから構成される。電極を蝸牛の中に挿入して、電気刺激を直接聴神経に伝える装置。

信号はアンテナを通して、頭皮下に植え込まれたレシーバー・スティミュレーター（受信コイル、電子回路、電極がシリコン樹脂で成形されたもの）の受信器へ電磁誘導で送られる。この機器を用いることによって従来補聴器を用いても音を十分に聞くことができなかった最重度難聴児でも音声によって会話が可能になるが、その言語能力には個人差も大きい。人工内耳を用いて会話を理解するためには補聴器と同様にハビリテーションが必要である。わが国では現在、人工内耳の手術適応は1歳あるいは体重8kg以上とされている。

早期教育

聴覚障害児の教育は、その目的達成のため難聴発見・診断後、速やかな保護者への相談支援から行うことがのぞましい。このため3歳未満の乳幼児と保護者への早期教育支援が特別支援学校（幼稚部・保育支援部・乳幼児教室など）、児童発達支援センター、医療機関のクリニック等で行われ、各々の方針に基づいて特色ある言語・コミュニケーション等に関する指導と共に、全人的な発達を促す幼児教育や子育て相談等が展開され、小学校以降の学校教育につながっている。

た行 聴覚閾値

指定された音が、評定者の聴覚を起こし得るときのその音の最小音圧レベル。他の音源から出て両耳のいずれかに達した音は、無視されると仮定している。単位：dBnHL、dB SPL 等

聴覚（障害）補償

聴覚障害がある本人が自分自身の障害を軽減・解消すること。補聴器や人工内耳を適合することで、聴覚を活用して音声でのコミュニケーション力を高めること、聾者とのコミュニケーションの機会を設け、手話でのコミュニケーション力を高めること、などがある。

聴性脳幹反応(ABR)

音刺激によって頭皮上から得られる一連の聴性電位変動のうち潜時の短い反応。一般に頭頂―耳介（乳突部）誘導により加算法を用いて記録される。本反応は速波成分と呼ばれる5～7個の陽性ピークと速波成分が乗っている緩徐成分とからなる。ピーク潜時は通常10ms以内で主に聴神経並びに脳幹部の聴覚路に起源を有するが、月齢や病態によりときとして10msより遅延する。従って計測は20msで行うことが望ましい。

伝音（性）難聴

外耳・中耳・か（蝸）牛窓・前庭窓のいずれか、又はそのすべてがおかされ、伝送特性が変化するために起こる聴覚障害。中耳炎や外耳道閉鎖、耳小骨奇形等、で起こることが多く、軽度から中等度の聴覚障害が多い。

は行 ハイリスク児とローリスク児

聴覚障害のリスク因子（表1、P5参照）を1つ以上持つ児をハイリスク児と呼び、それ以外の児をローリスク児と呼ぶ。

「パス(pass)」と「要再検(refer)」

NHS 機器の判定結果、「パス(pass)」の場合、その時点では聴覚に障害がない可能性が高い(例外はある)。

「要再検(refer)」とは、もう一度検査の必要があることを示しているもので、直ちに聴覚障害があることを意味するものではない。

ハビリテーション

先天性障害や幼少時からの障害を対象として、持っている機能を生かしてさらに発達させる治療や療育を指す(それに対して、「リハビリテーション」とは元の状態に回復させることを目的とする)。

補聴器

聴覚障害者の聴覚を補助することを目的とした補装具。通常、マイクロホン、増幅器、レシーバー(イヤホン又は骨導・軟骨伝導振動子)および電源装置(電池)からなる。補聴器は音声を増幅して聞かせる装置であるが、個々の聴力に合わせた音質や過大音抑制などの調整機能等を有し、薬事法で管理医療機器に定められた機器を「補聴器」と表示する。難聴のある乳幼児が補聴器を用いて言語を習得していくには、適切な調整とハビリテーションが必要である。補聴器はその形状や機能により、箱(ポケット)型、耳かけ型、挿耳型、骨導型、軟骨伝導型などの様々な種類がある。乳幼児の場合は成長による外耳道形状の変化、調整音域音圧の広さと精度、耐久性等を考慮して、耳かけ型が選択されることが多い。

ら行 聾学校

手話や音声言語等でのコミュニケーション環境を整え、聴覚障害による困難性や特性理解に基づいた言語活動などに留意して、幼稚園、小中高等学校に準じた教育が行われる。平成18年6月に学校教育法条文の「盲・聾・養護学校」が「特別支援学校」に改正され、学校の規模や地域の教育事情等を踏まえ、盲・聾・養護学校の併置や統合、校名変更などが国や自治体で検討され、現在では「聾(ろう)学校・聾話学校」「聴覚特別支援学校・聴覚支援学校・ろう支援学校」「特別支援学校」等々の多様な校名となっている。高等部には就職や高等教育機関進学を目的として、各校に普通科や多様な職業学科・専門学科及び専修コースがあり、高卒後1～2年間の専門教育を行う専攻科を設置する学校もある。卒業後の進路は専攻科や職業訓練校を含む進学と就職がそれぞれ約4割を占め、進学者の半数が四年制大学等の高等教育につながり、就職先は製造・事務・サービス関係とその幅が広がっている。また約1割強が生活自立を目指して就労支援事業所等を利用している。

また、聾学校内に併設した「聴覚支援センター」において、乳幼児から小中高等学校の児童生徒に対して、医療機関と連携した聴覚管理や補聴器適合、個別の指導計画作成やコミュニケーション支援、地域交流や教職員研修支援などを、各地域の実情に応じて行っている。

<https://audiology-japan.jp/cp-bin/wordpress/audiology-japan/wp-content/uploads/2022/02/yougo2022.pdf>

参考: 日本聴覚医学会用語集

<補足> 単語の使用について

・ 機器名称に関して

日本語表記	正式名称	自動聴性脳幹反応
	略称	自動 ABR
英語表記	正式名称	Automated Auditory Brainstem Response
	略称	Automated ABR

・ pass と refer の日本語訳

pass	パス
refer	要再検